

太田理絵先生 : Lancet Neurol (2010)9:981-991

“パーキンソン病に脳内ペースメーカー、奥深く刺激します！？”

Deep brain stimulation plus best medical therapy versus best medical therapy alone for advanced Parkinson's disease (PD SURG trial): a randomized, open-label trial

【背景】パーキンソン病(PD)の内服治療抵抗性で、Tremor、Dyskinesia、On-offがコントロール出来ない、いわゆる Advanced PD の患者さんに対し手術療法の上乗せ効果が評価されました。

【方法】Advanced PD 366 名に対し、薬物療法に Deep Brain stimulation(DBS: 淡蒼球、視床下部に電極を植え込みペースメーカーのようにリズム通電)術を施す手術群(n=183)と、薬物療法のみ群(n=183)の治療効果を、患者主観(PDQ=39)とDr評価(UPDRS: 精神、運動機能、on-off etc)にて評価されました。

【結果】PDQ=39 の 1 年後の変化は、手術群は 37.5 から 32.5、薬物のみ群では 38.7 から 38.1 と、手術群において、明らかに良好な改善を認めた。また、UPDRS においても、手術群で明らかに良好な改善効果を認め、dyskinesia が軽症化し、off time の短縮していた。一方、有害事象は、手術群では、血腫が 183 例中 4 例、感染が 16 例など、39 例に手術に関連した有害事象を認めた。

【結論】このように、薬物療法で治療困難なパーキンソン病では、DBS による手術療法の併用により、患者の QOL を明らかに改善することが示されました。脳深く電極を埋め込み、脳が発する電気信号のリズムを整える DBS 治療、日本ではまだ承認されていないそうですが、いずれ、ペースメーカー並に普及する日が来るのでしょうか？(文責阿比留)